

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 1月 2012 年を迎え

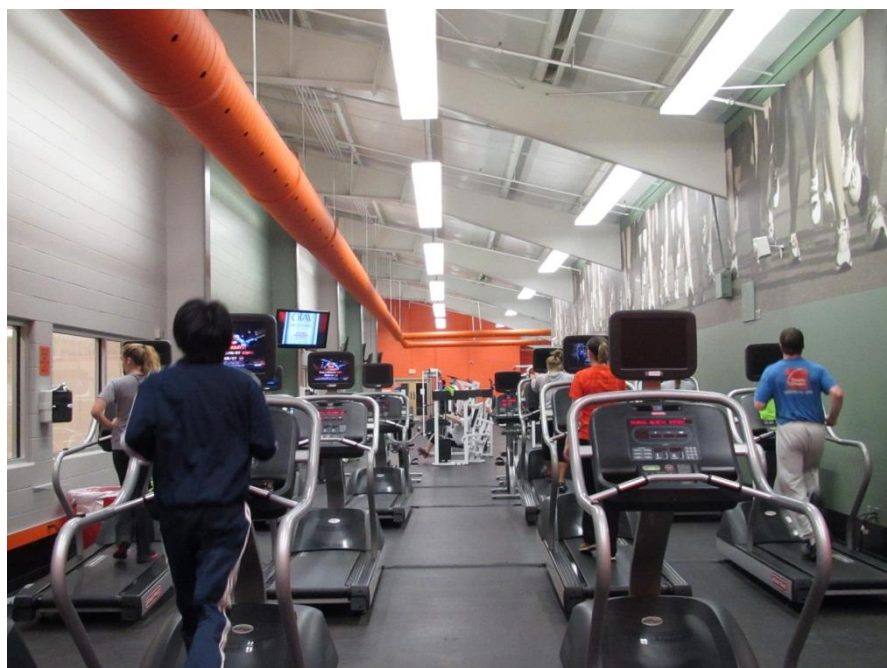
2012 年を迎え、また新たな一年の始まりです。フィンドレーに来てから、日々の生活が本当に充実していて、時間の流れも早く、もう 6 か月が過ぎてしまったのだということに驚きを隠せません。さて、今月は、ニッシンブレーキで行われたクーラント（冷却液）について研修で学んだこと、大学のスポーツ施設について紹介させていただきたいと思います。

今月は、ニッシンブレーキオハイオで現在、私達が行っているプロジェクト「切削機に使われるクーラント（冷却液）のリサイクル」についての研修がありました。研修には私ともう一人の奨学生の塚越君が参加し、マスターケミカルコーポレーションからお越しいただいたクーラントの専門家の方に講義を進めていただきました。ニッシンブレーキオハイオでは、車の製品を機械で加工する際に発生する熱を抑えるためにクーラントを多量に使用します。冷却液はバクテリアが増殖し約半年から一年の寿命しかありません。クーラントは非常に高価で、また、廃棄する際にも費用がかかるので、それをリサイクルするために必要な知識（クーラントが悪くなる要素、リサイクルの頻度、注意しなくてはならない点）を詳しく教えていただきました。曖昧になっていた部分がすべて解消されたので、現在、ニッシンブレーキで行われているクーラント管理の見直しや、会社に適したリサイクル回数の算出などを、これから、もう一度見直していく予定です。



使用済みクーラントの観察

フィンドレー大学の学生は、キャンパス内のプール、バスケットコート、ソフトボール室内練習場、トレーニング施設などを無料で利用することができます。1月を迎え、非常に寒くなったということで、体育館にあるトレーニング施設を利用し始める学生が増えてきました。毎日、多くの学生達がトレーニングをして汗を流しています。また、体育館では、フットサルやバスケットボールをしている学生達でも賑わっていて、体育館で知り合った学生同士がチームを組んでプレーをしている光景をよく目にします。私もバスケットコートのそばを通りかかった時に「一緒にバスケットをやらないかい？」とアメリカ人の学生に気さくに話しかけられ一緒にプレーしたことがあります。日本でこのような経験をしたことはありませんでした。この一言がきっかけで人と人のつながりができるので、アメリカの学生は知り合いや友達が非常に多いような気がします。日本人である私は、知らない人に話しかけることには慣れていませんが、アメリカでの人とのつながりを大切に、その「一言」が言えるように積極性を持って行動していこうと思います。



トレーニング施設で運動する学生達



体育館でスポーツをする学生達